

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金の復活もあり、当面は新車販売の増加が見込まれる。補助金によって、客の購入意欲は高まる。 ・エコカー減税の延長、補助金の復活が決まれば、自動車業界は必ず良くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者） 百貨店（経営企画担当） スーパー（営業企画） 乗用車販売店（経営者） 乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（経理担当） 住関連専門店（営業担当） 都市型ホテル（経理担当） 旅行代理店（従業員） タクシー運転手 テーマパーク（経営企画担当） 美顔美容室（経営者） その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・店舗によっては売上が増加しているため、今後は良くなる。 ・消費意欲は、緩やかに改善してきている。円高、タイの洪水の影響等も一段落している。今後はやや良くなる。 ・客単価は継続して上昇しており、今後も良くなる。 ・3月までは好調な状態が続く。また、エコカー補助金の効果も見込まれる。 ・エコカー減税と補助金の効果によって、今後は前年同月を上回る可能性がある。エコカー減税の延長後は対象基準が厳しくなることを知らない人も多く、今後マスコミ等で詳細に取り上げられると、駆け込み注文が加速する可能性がある。 ・エコカー減税の影響で、3月までは販売量は増加する。ただし、4月以降は減少する可能性がある。 ・エコカー補助金の復活など景気対策の効果は、前回と同様に出てくる。 ・復興需要、消費税増税前の駆け込み需要が少しずつ出始めており、住宅、マンション、各企業の設備投資も多少増加している。そのため、今後はやや良くなる。 ・2～3月に大口団体客の予約が入っている。 ・例年と比べて、円高に便乗して海外旅行を計画する会社数が増えている。東日本大震災の影響は小さくなりつつあり、オリンピック等の明るい話題も追い風になり、旅行計画も増えている。 ・タクシー業界では夜の売上が全体の6～7割を占めるが、数社から、薬品メーカーの接待が3月末まで続くという噂がある。そのため、今後の売上は増加する。 ・春から夏にかけて新規開業する施設の前評判が良いため、今後は良くなる。 ・ホームケア用品をリピートする客が増加しているため、今後はやや良くなる。 ・店舗、工場等の増改築工事の見積依頼や相談が増えてきているため、今後の仕事につながる。
	変わらない	商店街（代表者） 一般小売店〔自然食品〕（経営者） 一般小売店〔食品〕（経営者） 一般小売店〔書店〕（経営者） 一般小売店〔和菓子〕（企画担当） 百貨店（売場主任） 百貨店（売場主任） 百貨店（企画担当） 百貨店（経理担当） 百貨店（経理担当） 百貨店（店長） スーパー（経営者） スーパー（経営者）	・生活することに精一杯で、和菓子などぜいたく品にまでは手が届かないと話す客が多く、今後も厳しい状態が続く。 ・消費意欲が高まる状況は見出せない。当店で低価格路線には変更しないため、今後も現状のまま推移していく。 ・消費税増税を考えると、今後は現状維持が精一杯である。景気が上向くのはまだ先である。 ・1月の売上は、正月の売上と比べてかなり増加したが、2～3月もこの状態が続くかどうかは分からない。 ・先行き不安な材料があり過ぎて、予測は不可能である。 ・紳士靴は婦人靴よりも在庫が少ないため、売上は良くない。客は雑誌などを見て来店するが、メーカーでは在庫を持ちたがらないため品切れが多く、メーカーの売上も増加していないと考えられる。購買意欲のある客が増加しているが、売上はなかなか増加しない。 ・低価格でも、品質も伴った物でないと購入しない状態が続いている。購買意欲の低さは今後も続く。 ・前年同月の売上を越えられない状況が続いており、来月以降も急速に改善する材料は見当たらない。 ・テレビ放映された催事等は好調であり、何らかのきっかけさえあれば、今後も需要が伸びる余地はある。 ・新規の催事等の効果による売上増を期待しているが、全体としては景気が良くなる材料は見当たらない。 ・店舗の縮小、改装や商品の在庫切れの影響により、今後は客離れが予想される。 ・売上の停滞は今後も続く。 ・春には電気料金等の値上がりもあり、企業も家庭も経費が増える。限られた収入のなかでのやりくりは一層大変になり、ますます節約志向が強くなる。店舗、工場、個人の家では、修理が必要な箇所もそのままになっている。

スーパー（店長）	・主婦による夕方の売り切り、見切り、割引セール時の購入が顕著に増えており、少しでも安く買い節約したいという意識が強い。消費税増税も議論されており、このような購買行動は今後より一層高まる。
スーパー（店長）	・消費税増税の動きもあり、負担が大きくなるなどの不安から、先行きに不安を感じる客が多い。今後も、低単価品しか動きは良くならない。
スーパー（店員）	・年末年始は来客数、単価共に増加したが、その後は伸び悩んでいるため、今後も横ばいが続く。
スーパー（販売促進担当）	・大型競合店に流れた客は、しばらく戻ってこない。競合店でも低価格のため利益は取れていない状況にあり、非常に厳しい。
コンビニ（エリア担当）	・今月の状況が、当面継続する。
コンビニ（商品開発担当）	・カウンター周りの商品の好調は続きそうであるが、それ以外には大きな変化の兆しはない。
衣料品専門店（経営者）	・季節の変わり目で気分を変えたいという客が増加しても、売上の増加はあまり見込めない。
衣料品専門店（販売企画担当）	・東日本大震災からの復興と寒さが本格化したことにより、売上の増加を期待していたが、実際には変わっていないため、今後も変わらない。
家電量販店（店員）	・生活必需品の買換え需要は少ないながらも今後も見込まれるため、全体としては変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・例年2月はあまり良くないが、今年に関しても良くなるという意見と良くならないという意見の両方が聞かれ、どちらとも言えない。
乗用車販売店（従業員）	・年度末を控えて、客の車への関心は顕在化してきている。しかし、ハイブリッド車を中心であり、納期に長期間掛かるため、今期の決算には反映されない。
一般レストラン（従業員）	・飲食業では雨や急激な冷え込みなど天候に左右されやすいが、景気の状態も低位で安定しており、今後上向く兆しも見えない。
スナック（経営者）	・歓送迎会シーズンに入るが、景気の回復は見込めない。当面繁華街の人通りは増加することがなく、客の財布も固いままである。
都市型ホテル（経営者）	・宿泊単価は、今後も低迷が続く。
都市型ホテル（営業担当）	・特需がない限り、今後も現状維持である。
旅行代理店（経営者）	・受注量はやや良くなるが、円高傾向等も考えるとすぐにブレーキが掛かる可能性もある。
タクシー運転手	・良くなる材料も悪くなる材料も見当たらないため、このままの状態が継続する。
通信会社（営業担当）	・消費税等の増税の話題がある一方で、景気回復に向けた明るい話題は見当たらないため、今後も現状が続く。
テーマパーク（職員）	・東海北陸自動車道等のインフラ整備が一段落しており、新規計画等の好材料もないため、今後も大きな変化はない。
ゴルフ場（企画担当）	・今月と同様に、平地に近いゴルフ場の予約数は3月も順調である。山間部の寒冷地にあるゴルフ場でも、気温の上昇につれて増えてくる。
その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・今後業況が良くなる要素は、今のところ見当たらない。
設計事務所（経営者）	・業務量は少ないままである。個人住宅は設計事務所に依頼すること自体が減っており、企業案件も新築は少ない。今は耐震補強も含めて営繕的な業務が主流となっており、この傾向は今後も続く。
住宅販売会社（従業員）	・碎石の放射能汚染の問題など、今後に向けてマイナス要因ばかりである。
やや悪くなる	
一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・景気が良くなる要素がないため、客の財布のひもはさらに固くなる。環境が大きく変わらない限り、マイナス傾向は継続する。
百貨店（販売担当）	・クリアランスセール明けの落ち込みが大きい。安い物しか買わない印象もあり、今後はやや悪くなる。
百貨店（販売担当）	・前年は東日本大震災があったため、今後の前年同月比は良くなるが、実際に景気が良くなる要素は何もない。むしろ、次の天災への不安から、日用品以外の消費は冷え込む。
スーパー（店長）	・商圏内の小売店同士の競争激化により、厳しい状況は今後も続く。
スーパー（店員）	・野菜の不作に伴う価格高騰に追い討ちをかけるような寒波と大雪の影響で、今後は更なる価格上昇につながる。

		スーパー（営業担当）	・円高で、製造業を中心に輸出産業が低迷している。地域でも大手自動車メーカー関連の雇用が厳しくなっており、昇給等も難しい状況にあるため、今後はやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・以前は客単価、来客数、売上共に前年同月比で大幅な改善傾向にあったが、今年に入り前年同月並みの傾向となり、重点管理商品の売上も減少している。そのため、今後はやや悪くなる。
		コンビニ（店長）	・来客数が減少している。客は本当に必要な物しか買わなくなっている。この傾向は今後も続く。
		家電量販店（店員）	・欧州など海外の動きの影響を受けており、悪くなっている。財布のひもが固い状況が続いており、今後はやや悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・現在はエコカー減税や補助金の効果で、一時的に販売量は増加している。客は駆け込み購入している感じがあるため、将来の販売量は減少する。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー減税の終了前の駆け込み需要が終了すると、やや悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・客の出費に対する意識が高まっている。生活不安が払しょくされないなか、消費者の生活防衛や節約志向は今後も続く。
		スナック（経営者）	・年配客が全体の8割になり、今後数か月間は孫の入園や入学のお祝いがあるため、来客数、売上共に減少する。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・今後消費税増税の議論が本格的に進むと、売行きは確実に落ち込む。
		都市型ホテル（支配人）	・2月以降の宿泊予約の動きは鈍くなっている。宴会も低迷しており、レストランも夜の利用が悪化している。
		通信会社（企画担当）	・消費税増税の議論などによって先行き不透明感は更に増しており、消費の停滞は一段と進む。
		通信会社（営業担当）	・今後、他社では携帯と固定電話を合わせた割引サービスを始めるため、競争が激化する。
		パチンコ店（経営者）	・来客数の動きは悪化しており、単価も下落傾向にあるため、今後の景気はやや悪くなる。
		その他住宅〔住宅管理〕（従業員）	・年配客の年金不安などから、高額物件の契約には至らない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・中東情勢が不安定であり、今後原油価格が高騰してくると、商品はますます売れなくなる。周囲でも、資金繰りがひっ迫して再び倒産が増えるのではないかと非常に懸念している。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	・完全地上デジタル放送化に伴うテレビの買換え需要が終了して以降、単価も低下している。この状態は当面継続するか、一段と悪化する。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・消費税増税が決まれば、消費は一段と冷え込む。
		コンビニ（店長）	・新年に入り財布のひもはますます固くなっている。好材料は1つも見出せず、今後は一段と厳しくなる。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・景気の先行き不安を口にする客が増加している。消費税が増税されるかもしれないなど先のことを心配して、気軽に買物もできないとの話をよく聞く。消費は冷え込んでおり、今後は一段と厳しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・予約数は前年の同時期と比べて減少しており、春先の動きも悪い。
		テーマパーク（職員）	・団体客が減っており、今後は一段と厳しくなる。
		理美容室（経営者）	・客からは消費税増税やリストラの話をよく聞くため、今後も良くならない。
		理容室（経営者）	・今後、財布のひもは一層固くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅建築への客の決断が鈍いため、今後は仕事が無くなっていく。これまでは増改築でしのいできたが、それすらも決断が鈍くなっており、非常に苦しい。今後は一段と悪くなる。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（経営企画担当）	・復興需要がある程度見込まれることから、内需の拡大によって景気はやや上向き。
		化学工業（人事担当）	・適正な為替水準にならない限り、景気は良くならない。今後は米国経済の回復や日本の貿易赤字に伴う円安傾向により、景気は緩やかに回復する。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・取引先の生産計画が増加傾向にあるため、今後はやや良くなる。
		金融業（従業員）	・現在も悪くはない状況にあるが、今後は良い方向へ向かうとの声聞かれる。ただし、自動車関連、建設業の下請などでは、売上、仕事量共に減少しているという企業もある。
		金融業（法人営業担当）	・自動車関連部品メーカーでは、3月期末まで受注残を抱えている。そのため、当面は生産の増加が持続する。

		その他非製造業〔ソフト開発〕(経営者)	・3月に向けて、多くの下請企業では仕事が潤沢にあり、利益も増加する。
変わらない		紙加工品〔段ボール〕製造業(経営者)	・当社では今後数か月間は価格転嫁に重点を置くため、新規案件の獲得は難しくなる。販売量の伸びも期待できない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(総務担当)	・現在の需給量、販売量が、今後も持続する。
		化学工業(企画担当)	・今期末から来期に向けて、少しずつ回復が見込まれる。しかし、円高や欧州の信用不安なども勘案すると、全体としては変わらない。
		窯業・土石製品製造業(社員)	・従来の製品は縮小傾向にある。新製品の引き合いはあるが、販売数量はなかなか伸びない。今後も一進一退が続き、変化はなさそうである。
		電気機械器具製造業(営業担当)	・為替が大きく変化しない限り、現在の状態が今後も続く。
		電気機械器具製造業(経営者)	・鉄鋼メーカーからは、値下げの話がある。受注量の減少に伴う対応が実施される見通しである。
		輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	・4月にはタイの洪水に伴う代替品の生産が終わり、円高や欧州の信用不安の影響等もあるため、生産は減少する見込みである。
		輸送業(経営者)	・景気が良くなる情報はなく、消費行動の変化も予測されないなか、主要荷主の製造業からの増産対応への要望もない。
		輸送業(エリア担当)	・1月の荷物量は増加したが、今後の増加は疑問である。景気が明るくなる兆しは見受けられない。
		金融業(企画担当)	・ギリシャを中心とした欧州の信用不安が解決に向かわない限り、投資に動きづらいと話す客が多い。
		不動産業(開発担当)	・今後、工事費がどの程度上がってくるかにもよる。現状では先行きを全く読めない状況にある。
	広告代理店(制作担当)	・企業側の積極的な動きはあまり見られない。新規の依頼も、単発物が多少増える見通しに止まる。	
	新聞販売店〔広告〕(店主)	・宣伝媒体が多様化しており、折込広告の増加は今後も見込めない。	
やや悪くなる		印刷業(営業担当)	・周囲の企業は、全体的に景気が良くない。景気が良くなる材料も見当たらないため、今の状況が今後も継続する。
		鉄鋼業(経営者)	・現在は自動車産業等が年度末に向けて増産しているが、今後は円高に伴う空洞化が進むため、国内需要は低迷する。
		一般機械器具製造業(営業担当)	・今後は設備投資の先取りの動きが収まり、引き合い、受注量共に減少する。また、相変わらずの円高のため、利益を圧迫する。
		電気機械器具製造業(企画担当)	・円高基調が変わらない限り、収益は悪化する。収益の悪化は予算の削減につながり、負のスパイラルが始まりかねない。
		輸送業(エリア担当)	・大手自動車メーカーでは、前年の生産台数の遅れを3月までに取り戻そうとフル稼働であるが、その先は不透明である。鉄鋼、木材等の動きも鈍い。
		経営コンサルタント	・中心部のごく一部の地価は良いが、郊外の商業地は売上が伸びていないため、今後も厳しい状態が継続する。
		会計事務所(職員)	・顧問先企業では、設備投資等への新たな資金導入が見られない。現時点では借入金の返済を重視しているため、今後も良くならない。
悪くなる		窯業・土石製品製造業(経営者)	・住宅着工件数の動向から、タイル、食器の窯業界の2~3か月先の景気は悪くなる。
		金属製品製造業(経営者)	・引き合い件数が減少しているため、今後は一段と厳しくなる。
		不動産業(経営者)	・中小企業金融円滑化法の期限の最終延長等が示されたため、中小企業の資金繰りは悪化する。不動産の売買の動きも相当鈍くなる。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社(社員)	・正社員採用の求人が増えてきているため、今後はやや良くなる。
		人材派遣会社(営業担当)	・求人数が増えており、今後もやや良くなる。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	・自動車製造業に人材を供給しているが、エコカー減税、補助金が決まれば自動車の増産が予想されるため、やや良くなる。
	職業安定所(職員)	・新規求人数の前年同月比は、17か月連続で上昇している。新規求職者数は減少傾向が続いている。この状態は今後も続く。	
変わらない	人材派遣会社(経営企画)	・客からの需要は落ち着きつつあり、今後は横ばいとなる。	
	人材派遣会社(経営者)	・大都市では求人が広がってきているが、地方都市ではほとんど動きがなく、社員を募集してもなかなか集まらない。この状態は今後も続く。	

	人材派遣会社（営業担当）	・今後も円高が継続すると、輸出産業の収益の停滞は各方面で続き、厳しくなる。
	人材派遣会社（支店長）	・地域経済の雇用に大きな変化はなく、同水準で推移する。派遣求人数は、大手自動車メーカーでは前年比マイナスとなるが、その他の企業では正社員の退職や派遣社員の補充により前年比プラスとなり、トータルでは前年並みになる。
	人材派遣会社（支店長）	・派遣先企業側の都合による契約終了が、2割程度減少してきている。工作機械関連の引き合いも多いことと、一部企業での持ち直しが出ていることから、当面は現状が続く。
	職業安定所（職員）	・製造業を中心とする基幹産業では、円高の影響もあり、小規模企業を中心になかなか利益が増えず、海外で製品を生産する動きも強まる。
	職業安定所（職員）	・受注が4月ごろまではかなり入っているが、それ以降は不透明という企業が多い。
	職業安定所（職員）	・リーマンショック後の回復が思わしくないなか、東日本大震災、円高の影響も大きく、中小企業では厳しい状態が継続しており、各種の助成金を活用した対応も限界に近づいている。旅行業界も東日本大震災、円高の影響で外国人旅行者が前年の半分以下の状態が継続しており、まだまだ景気が良くなる兆しは見えない。
	職業安定所（次長）	・円高等への対応で、大手企業では生産を本体に集約したり拠点を整理する動きがあり、下請企業や大手の地方工場では閉鎖や人員調整も一部にみられる。そのため、雇用面では良くなる動きと悪くなる動きが相殺されて、業種や分野によってばらつきが出てくる。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・採用の問い合わせに3年生と4年生が混在してきている。この時期は採用側にも特に反応はなく、この先の変化を感じない。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・歡送迎会への派遣予約状況は例年並みであるが、今までが良かっただけに、今後は少し落ち込み気味である。
	職業安定所（所長）	・生産受注が3月末までとなっている事業所が多い。4月以降の生産受注は、円高など不確定要素が多く、先行き不透明で不安を抱える事業所が多い。そのため、求人募集はやや減少する。
	職業安定所（職員）	・企業からは、年明けから受注量が減少したとの声が聞かれる。年明けの契約更新から影響が出始めた可能性があり、数か月後から雇用に徐々に影響が出てくる可能性がある。
	民間職業紹介機関（支社長）	・電機、電子部品、半導体、鉄鋼など自動車以外の主要産業が停滞している。
悪くなる	-	-